

球磨工 人権だより

1 2月号 No4 人権教育推進委員会

人権教育の係の井本です。2学期がもうすぐ終わろうとしています。

皆さんにとってどんな2学期だったでしょうか？体育大会や球磨工フェスタなど学校行事も多く、忙しい中に充実した日々を送った生徒が多いと思います。

さて、そんな忙しい日常ですが、生徒の皆さんに考えてもらいたいことがあります。「居心地のよい学校とは」ということです。7月に出した球磨工人権だより No2 では、「居心地のよいクラスとは」がテーマでした。1年生ではロングホームルームでもみんなでお話し合った内容です。話し合っただけで次のような意見が出たことを紹介しました。

●居心地のよいクラスになるために大切なことは？

- お互いの気持ちを尊重する。○相手の気持ちを考えた発言や行動。
- 雰囲気にならなれないで、周囲が歯止めをかける。
- いじめにあえば助けをも求める。助けに応じるクラスを作る。
- ルールや決まりを守る。いけないことはいけないと注意しあう。 などなど。

お互いの気持ちを尊重することなど、いじめをなくすために大切なことはみんなわかっています。でも、残念ながらいじめなどのトラブルが2学期にも発生しています。わかっている結果として「周囲の人に嫌な思いをさせたり」「傷つくような言動をしたり」ということがあると、その人の心を大きく傷つけてしまうこともあるし、取り返しのつかない事態になることもあります。わざといじめたりすることは絶対に許されません。みんなで「居心地のよい学校」にするために、他人ごとではなく自分のこととして考えたいですね。

右の絵を見て下さい。ある日の休み時間の様子です。何か気づくことはありますか？

○安易に人の嫌がることを黒板に書いたりしていませんか？

○からかったり悪ふざけ程度と思っているかもしれませんが、本当に嫌な思いをしている

人もいるかもしれません。○いじめを煽るような言動をしていませんか？

○強い否定の言葉は、周囲を威圧したり、怖い思いをさせたりしているかもしれません。

○その内緒話で傷つく人はいませんか？

自分自身の普段の言動を振り返って、相手の気持ちを考えた発言や行動ができていないか、改めて考えたいですね。

また、いじめられたり嫌な思いをしたときは、早めに信用できる大人の人に相談してほしいです。いじめた人が悪いのであって、いじめられた人が我慢するのはおかしいです。また、いじめを相談すると被害が悪化するのではと心配する生徒が多くいるが、実際は早めに先生などの大人に相談すると解決に向かうことが多い、というデータもあります。相談しやすい雰囲気づくりを学校としても考えていきたいです。（文責：井本）

